Meijo University

大学教育開発センター発行
2021.1 Vol.14

FD NEWS

アフターコロナを見据えた大学教育の在り方
～遠隔授業に関するアンケート結果を踏まえて～

Contents

1. 遠隔授業実施に関するアンケート結果
2. FDフォーラム「コロナ禍における教育の質保証」の概要
3. 反転授業とは
4. 名城大学のFD活動
5. 刊行物の紹介
6. 書籍の紹介（FD関連）

発行にあたって

今年度は新型コロナウイルスにより、特に前期は遠隔授業にシフトせざるを得ない状況になりました。後期からは対面授業を原則としつつも、今も第3波が押し寄せている状況の中で、これまでに経験のしたことのない対応に迫られています。

この新型コロナウイルスにより遠隔授業を経験することで、学んだこともあれば課題も浮き彫りになった点もあったかと思います。アフターコロナを見据えて、大学教育はどうあるべきかについてはまだ明確な答えがあるわけではありませんが、模索していくことも必要と考えています。

今号では、本学のFD・SD活動の一環として、遠隔授業に関するアンケート結果を概観し、FDフォーラムの概要、さらには反転授業についても確認していきたいと思います。

1．遠隔授業実施に関するアンケート結果

本学では、今回のコロナ禍における遠隔授業を踏まえて、2020年８月から９月にかけて、学生向けと教員向けに「遠隔授業に関するアンケート」を実施しました。後期授業からは原則、対面授業となっておりますが、今後も対面授業を原則としつつも、一方で、遠隔授業のメリットも活かしたハイブリット型の授業の模索も必要かと思われます。今一度、今回のコロナ禍における遠隔授業の実態を概観します。

1）学生向けアンケート

【実施概要】

調査目的 ： 遠隔授業を受講した結果を踏まえ、学習到達度や ICT 環境、対面講義との比較等を調査し、授業手法の改善に向けて支援していくための実態調査。

調査内容 ： 前期の授業全体において「受講について 」「ICTツールについて」「遠隔授業全般について」を大項目とする。

調査方法 ： WebClass システム によるアンケート　計22問

実施期間 ： 8月5日（水）～9月18日（金）

回答者数 ： 6,213名（回答率：41.8%）

【主要項目におけるアンケート結果】

・**「遠隔授業が有効であったか」**：「大いに有効だった・ある程度有効だった」65.8%
「あまり有効ではなかった・有効ではなかった」33.1%

・**「課題の量」**：「やや多い・多い」と感じた学生　64.2%

・**「1週間あたりの自学自習 の平均時間」**：「3～5時間台」23.2%と最も多い

・**「遠隔授業の方法」**：オンデマンド授業の受講8科目以上が61.8%
リアルタイム授業の受講0科目　39.4%、1科目　29.1%

・**「遠隔授業で良かったと思うこと」**：都合のよい時間・自分のペースで学習、自宅で学習、繰り返し学習

・**「遠隔授業で困ったこと」**：WebClassやコンピューターの操作方法、教材がわかりにくい、課題が多い、質問しにくい、勉強のペース、集中力、孤立感

2）教員向けアンケート

【実施概要】

調査目的 ：遠隔授業を実施した感想や実施状況を踏まえ、遠隔授業の課題を明確にし、授業手法の改善に向けて支援していくための実態調査。

調査内容 ：前期の授業全体において「遠隔授業の感想,実施状況等 」「遠隔授業の教育に関する内容」「遠隔授業の環境全般について」を大項目とする。

調査方法 ： WebClass システム によるアンケート　計27問

実施期間 ： 8月21日（金）～9月11日（金）

対象者数 ：1050名（専任：473名、非常勤：577名）

回答者数 ：　639名（専任：294名、非常勤：345名）

回答率　 ： 60.9%（専任：62.2%、非常勤：59.8%）

【主要項目におけるアンケート結果】

・ **全体傾向** ：専任と非常勤の回答に大きな違いは見られなかった

・**「遠隔授業のスタートにあたり、困った点」**：「遠隔授業実施の連絡を受けてから授業開始までの時間が短かった」（専任 51.4%、非常勤 40.3%）と最も多い

・**「大学からの案内・対応で有効だったもの」**：「情報センターによるWebClassの利用マニュアル」（専任 67.3%、非常勤 72.5%）「トライアル期間の設定」（専任 45.9%、非常勤 41.7%）

・**「遠隔授業の実施方法」**　：全授業形態で「WebClassの「資料」での講義資料・課題の配布」が最も多い

・**「1授業あたりに要した準備および質問対応時間」**：「とても増えた」「やや増えた」が多い

・**「遠隔授業で得られた効果」**：「授業への参加状況の管理がしやすい」が多い

・**「学習意欲の向上」**：「変化なし」が多い

・**「学習の効果」**：「変化なし」「低下」が多い

・**「阻害要因・通信環境」**：教員自身「問題がない」 64.6%、学生の通信環境「よくない」 77.3%

・**「阻害要因・各種ツール活用のスキル不足・知識不足」**：教員自身：スキル不足 57.3%、知識不足 59.6%
教員から見た学生：スキル不足62.8%

・**「教職員への支援体制」**：「不足している」63.5%

以上の結果を踏まえ、大学教育開発センターでは、今後も遠隔授業に対してもFD支援を行っていきます。

2．ＦＤフォーラム「コロナ禍における教育の質保証」の概要

2020年11月7日、リアルタイムのオンラインにより、「コロナ禍における教育の質保証」と題したＦＤフォーラムを開催しました。講演概要は以下のとおりです。

1.「コロナ禍における教育の質保証－教学マネジメント指針を踏まえて－」

立命館大学　教育開発推進機構　沖　裕貴　教授

令和2年1月22日の第152回大学分科会において、「教学マネジメント指針」が取りまとめられた。教学マネジメントは「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営」と定義されている。特に「供給者目線」から「学修者目線」へと転換していくという視点が重要である。本指針は、３ポリシーに基づき、学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組みつつ、社会に対する説明責任を果たしていく大学運営の在り方を示すことにより、教学マネジメントの確立に向けた取り組みを促す契機とするものではあるが、「マニュアル」であることは意図していない。

DP等を明示するためにも目標を立てる時点で達成度を測る仕組みが必要であり、観点別教育目標が重要となる。観点別教育目標は、目標領域・目標類型に沿って教育目標を記述したものであり、現在の学力三要素「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」は、もとはブルームの三領域「認知的領域」、「情緒的領域」、「精神運動的領域」から紐づけられる。例えば観点別の到達目標の例として、「自転車に乗るときのコツをつかませる」と設定した場合、①「コツをつかむ」の意味が不明瞭、②「コツをつかませる」は学習者が主語ではない、といった問題点がある。書き換えるとすると「一人で自転車に乗ることができる」とし、より正確を期すのであれば、「補助輪をつけず、一人で自転車を運転し、100ｍを走ることができる」なども適切な目標と言える。

成績評価においては、ルーブリックが効果的であり、学生にとってはどう評価されているかが明確になり、授業への関与を促す。さらに、公平性に対する認識を促し、クリティカルな思考を支援する。

コロナ禍における教育の質保証において、授業外学習時間の増大、ブレンディッド・ラーニングの可能性、Ｗｅｂで拡がる新たなコミュニティの形成の可能性などがある一方で、学生の負担感の増大、成績評価の方法の変化（定期試験の実施困難性）などの課題もある。

2.「遠隔教育と教育の質向上のためのアプローチ－WebClassを題材に－」

東京学芸大学ICTセンター　森本　康彦　教授

現在、東京学芸大学においても、教育の質向上のためにWebClassを使用している。ただし WebClassはツールであり、これを使用したからと言って教育が良くなるわけではない。使い方が教育方法と合っていなければ、効果はあがらない。教育の質保証には、大きく二つある。一つは教育プログラムの質保証、二つ目は学生の学習成果（アウトカムズ）による質保証であり、今回は後者について扱う。

そもそも「学ぶ」ということは、ただ暗記するのではなく、自ら考え、気づくことである。ただ知識を与えるのではなく、学習者が受動的な講義の授業から、学習者による能動的な学びへ転換する必要がある。その時のツールとして学びのポートフォリオを使うことになる。紙でもよいが、持ち運びの観点からもデジタルが有効であり、音声や動画も使える。これが「e-ポートフォリオ」である。

学生の相互評価は重要であり、教わるより教えるほうが学習効果は高い。また学びの振り返りも重要であり、「e-ポートフォリオ」の機能を使うことで実現できる。今回の新型コロナの経験を通して、「e-ポートフォリオ」の重要性が高まった。

※当日の講演内容を視聴されたい方は、統合ポータルサイト「SSL-VPN」の「講義収録」から視聴することができます。 講義収録ログイン方法（ID/PW）は、ポータルサイト「お知らせ」（2020/11/13掲載）にてご確認ください。

3．反転授業とは

今年度の新型コロナの対応から、遠隔授業を導入し、特にオンデマンド型では、いつでも視聴して学べるなどの利点がありました。こうした利点を活かしながら、「反転授業」という教育手法に注目する動きが強まっています。「反転授業」とは、これまでのように「教室で講義して、自宅で演習の宿題を行う」という形態を反転させて**「授業前にオンデマンド等を活用して知識を習得させ、授業では理解度を確認したり、協調学習などの演習を行う」**というものです。

「反転授業」では、事前に習得した知識を授業で活用することになり、問題解決能力の育成につながることや、目的意識をもって授業を受けられること、さらには事前学習でオンデマンドを利用することで自分のペースで学べるなどのメリットがあります。また、授業でグループワークを設定し、複数人で一つの問題を考えることで気づきもあり、理解も深まります。

「反転授業」と一言で言いましても、その手法には多様性があり、教育効果を高めるためのノウハウもあります。大学教育開発センターでは、この「反転授業」の手法についても共有できるよう、ＦＤ学習会等の企画をしていきますので、ぜひ、ご参加ください。

4．名城大学のFD活動

○前期授業改善アンケートの結果

前期・後期の2回、 WebClassシステムによる授業改善アンケートを実施しています。2020年度前期は、教員の皆様にご協力いただき、WEBアンケート実施以降、最も高い回答率(49.8%)となりました。また、回答結果は「成長実感」「授業満足度」「自学自習時間」とも昨年度前期と比較し、全体的に高い結果となりました。

◆前期実施結果

実施時間：2020年7月15日～8月4日

アンケート結果	2020年度前期	2019年度前期
回答率	49.8%	33.7%
成長実感（強く+やそう思う）	75%	71%
授業満足度（強く+やそう思う）	74%	72%
1授業あたりの自学自習時間（週1時間以上）	46%	20%

○後期授業改善アンケートについて

2020年12月14日～2021年1月12日に授業改善アンケートを実施しました。

回答結果は、1月29日頃に先生方にフィードバックされますので、「教員コメント」の入力をお願いします。

コメント入力期間 ： 2021年1月29日～2月26日

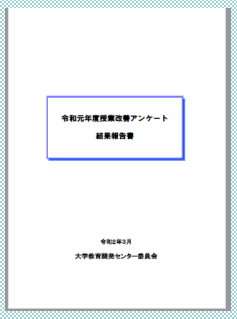
5．刊行物の紹介

本学ホームページで、各種刊行物を公開しています。ぜひ閲覧ください。

FD活動報告書
https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/center/publication/action.html
教育年報
https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/center/publication/annual/
授業改善アンケート結果報告書
https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/fd/survey.html

FD活動報告書

教育年報



授業改善アンケート結果報告書

6．書籍の紹介（FD関連）

大学教育開発センターでは、FD関連書籍の貸し出しを行っており、今回は2冊ご紹介します。随時貸し出しを行いますので、興味のある方は、下記までご連絡ください。

アクティブラーニング型授業としての反転授業［理論編］
森朋子・溝上慎一

国内での反転授業の取組を調査し、AL型授業の発展型として位置づけるための理論を探る

アクティブラーニング型授業としての反転授業［実践編］
森朋子・溝上慎一

現在の反転授業の取組を調査し、文理問わず多彩な実践事例を厳選して集約した実践編

Meijo University
名城大学　大学教育開発センター　〒468-8502　名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地
TEL：(052)838-2032　FAX：(052)833-5230　E-mail：edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp